

質疑回答書

吹田市立男女共同参画センター図書管理システム用機器等賃貸借業務制限付一般競争入札について以下のとおり質問がありましたので、回答します。

| No. | 仕様書記載内容                            |                       |                                                                                                                                         | 質疑                                                                                                                                                           | 回答                                                                                                                                                        |
|-----|------------------------------------|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 制限付一般競争入札実施要領                      | 11 入札金額               | (2) 上記の経費には、現行システムからのデータ抽出に係る費用を含める。費用については現行システムの事業者から見積を取得すること。                                                                       | データ抽出合算費用を既存業者に見積依頼し、5月14日までに合算の上、提出する必要があるという認識でよろしいでしょうか。                                                                                                  | データ抽出費用を仕様書に示す現行システム業者へ見積依頼し、その価格を加味した上で、5月14日の入札価格としてください。                                                                                               |
| 2   | 吹田市立男女共同参画センター図書管理システム用機器等賃貸借業務仕様書 | 4 賃貸借期間（システム運用期間）     | 本業務は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第234条の3に基づく長期継続契約であるため、この契約を締結する日の属する年度以降において、本契約に係る歳出予算に減額又は削除があった場合、発注者は、この契約を変更し、又は解除することができる。                | 解除等あった場合は残賃貸借料を一括でお支払いいただけますでしょうか。                                                                                                                           | 解除等があった場合の支払等については、吹田市と事業者が協議して定めます。                                                                                                                      |
| 3   |                                    | 7 現行システムの状況           | (1) TRCのTOOL- iより、週1回全件MARCとローカルデータをインターネットを介してダウンロードしている                                                                               | 現行機能と同等であれば問題ないでしょうか。                                                                                                                                        | 仕様書に記載している現行図書管理システムの使用状況で問題ありません。                                                                                                                        |
| 4   |                                    | 9 図書管理システム要件          | (1) ウ 稼働時間は原則365日24時間とする。メンテナンス等でシステムを計画停止する場合は事前に協議すること。なお、計画停止は原則年間5日以内とすること。                                                         | 緊急度の高い脆弱性メンテナンスを行う事がある為、セキュリティ確保の観点から、事前告知のみで即時対応させて頂く場合がありますが、その点についてご了承いただけますでしょうか。                                                                        | 緊急的な対応が必要となる場合については了承します。                                                                                                                                 |
| 5   |                                    | 9 図書管理システム要件          | (2) ア 国際標準化機構の「ISO27017」、クラウドサービス情報開示認定機関の「ASPIC」から認証を受けたクラウドサービスを提供すること。なお、標準機能で要件を満たしていない場合は、個別で対応すること。                               | ASPICの証明書は、提出する必要があるでしょうか                                                                                                                                    | ASPICの証明書の提出は、必須ではありません。クラウドの安全性等についての確認は必要ですので、落札後、契約締結の前に説明を求めます。                                                                                       |
| 6   |                                    | 11 機器の要件              | (2) イ 図書管理システムが動作するよう、運用開始に必要な全機器の設置、必要なソフトウェアの設定、ネットワーク配線等作業を完了させること。                                                                  | 外部接続用ネットワークは、お客様で用意される想定です。回線の回線速度はどの程度のものを想定されておりますでしょうか。また、「ネットワーク配線等」とは、ネットワーク機器からライブラリコーナーまでの配線工事は、費用に含むという認識でよろしいでしょうか。またその場合、どの程度の距離を配線する必要がありますでしょうか。 | 外部接続用ネットワークはJ:COMのARRIS CM820を使用しています。なお、有線で接続した場合、下り320Mbps、上り10Mbpsとなっています。「ネットワーク配線等」とは、ネットワーク機器からライブラリコーナーまでの配線工事も、費用に含みます。また、現況での配線を通ず距離は、約14メートルです。 |
| 7   |                                    | 12 現行図書管理システムからのデータ移行 | (1) 現行システムのデータを、業務に支障をきたすことなく新システムに移行すること。移行対象のデータは、蔵書のローカル情報データ、書誌データ（発注者作成データ、MARCデータ）、統計データ、予約データ、利用者情報、貸出情報等、新システムに引き継ぐべき全てのデータとする。 | 統計データは、令和7年9月1日から稼働予定の為、現新システムで年度をまたぐものだと認識しておりますが、例えば、年次統計であれば、令和7年4月1日～令和7年8月31日のものと、令和7年9月1日～令和8年3月31日のものが、1つの統計に合算されて出力できれば良いとの認識でよろしいでしょうか。             | 問題ありません。                                                                                                                                                  |

| No. | 仕様書記載内容           |                 |                                                                                                                       | 質疑                                                                                                                          | 回答                                                         |
|-----|-------------------|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 8   |                   | 14 運用期間の保守      | (5) ハードウェアの予防保守として、定期点検および部品の交換を行うこと。                                                                                 | クライアント端末の為、障害発生時に保守対応を行う認識でも良いでしょうか。                                                                                        | 当センターに設置する機器については、おおむねそれがかまいません。                           |
| 9   |                   | 15 納品する成果物      | (6) ネットワーク図、(7) セキュリティに関する説明書（ファイアウォール、暗号化）                                                                           | ネットワークはお客様でご用意される認識の為、(6) ネットワーク図、(7) セキュリティに関する説明書（ファイアウォール、暗号化など）の資料は納品不要ととらえて良いでしょうか。                                    | (6) と (7) をまとめたごく簡単なもので構いません。こちらがお伝えする範囲で作成いただき、納品してください。  |
| 10  |                   | 18 賃貸借期間満了後の取扱い | (3) 賃貸借期間終了後には、システム内の本市のデータを確実に削除することとし、その費用は契約価格に含めること。また、全データ消去又は廃棄した証明書を提出すること。                                    | データ消去については物件撤去の受注者指定の倉庫での実施で問題ないでしょうか。                                                                                      | 受注者が、安全に責任を持ってデータを削除できるのであれば問題ありません。                       |
| 11  |                   | 19 その他の留意事項     | (3) 当施設は、賃貸借期間中に、大規模改修工事を予定しており、その間、図書管理システムを仮事務所へ移設し、工事後に元の施設へ戻すこととなる予定である。その場合の機器の設定や稼働確認等についても業務に含むこと。             | PCの移設のみの想定で、ネットワーク工事の費用は含まないという認識でよろしいでしょうか。                                                                                | 問題ありません。                                                   |
| 12  | 別紙1 図書管理システム機能仕様書 | No.2            | 書誌データについては市販MARCを収集し、その特性を100%使用すること。現在使用しているTRCMARC(Tタイプ)を、今回導入するシステムでも同様に活用すること。雑誌、視聴覚資料データ(DVD)MARCについても対応可能であること。 | 雑誌MARCは、TRCとお客様との別途契約で購入頂くと取込可能です。貴館の規模も考慮し手入力の運用でよろしいでしょうか。                                                                | 現況は、雑誌MARCについては手入力で運用しており、それがかまいません。                       |
| 13  |                   | No.14           | 利用者区分ごとに貸出可能冊数、貸出可能日数、継続可能回数、臨時返却日、延滞中貸出の許可／不許可、禁帯本貸出の許可／不許可が自動的に適用され、貸出可能冊数、貸出可能日数については、無制限の設定も可能であること。              | 「臨時返却日」とはどのような返却日でしょうか。                                                                                                     | 任意の返却日の設定を設ける場合に使用することを想定しています。                            |
| 14  |                   | No.46           | 書名別図書目録を表示及び印刷できること。                                                                                                  | 現行機能と同等の帳票を利用して頂くことで良いでしょうか。                                                                                                | 今回はパッケージシステムのため、細かい指定はありません。現行図書管理システムで作成する帳票は問題なく使用しています。 |
| 15  |                   | No.47           | 著者名別図書目録を表示及び印刷できること。                                                                                                 | 現行機能と同等の帳票を利用して頂くことで良いでしょうか。                                                                                                | 今回はパッケージシステムのため、細かい指定はありません。現行図書管理システムで作成する帳票は問題なく使用しています。 |
| 16  |                   | No.48           | 分類記号別図書目録を表示及び印刷できること。                                                                                                | 現行機能と同等の帳票を利用して頂くことで良いでしょうか。                                                                                                | 今回はパッケージシステムのため、細かい指定はありません。現行図書管理システムで作成する帳票は問題なく使用しています。 |
| 17  |                   | No.52           | 分類別の冊数集計、分類別冊数割合を表示及び印刷、Excel形式のファイルに出力できること。また集計したいオリジナル分類を任意で設定し、冊数集計を表示及び印刷できること。                                  | 現在ある、分類別蔵書統計（所蔵の統計分類）は出力可能です。ただ、分類別冊数割合を表示は、できかねます。オリジナル分類を任意で設定して、冊数集計は、資料データリストで出力するという代替案で対応させていただきたいと考えておりますがよろしいでしょうか。 | 今回はパッケージシステムのため、細かい指定はありません。可能な範囲の代替案で対応していただいて問題ありません。    |
| 18  |                   | No.54           | 貸出冊数、返却冊数、貸出人数等の統計情報を、日単位、曜日単位、月単位それぞれで集計し、一覧表示及び印刷できること。                                                             | 現行機能と同等であれば問題ないでしょうか。                                                                                                       | 今回はパッケージシステムのため、細かい指定はありません。現行図書管理システムでは問題なく使用しています。       |
| 19  |                   | No.59           | 書誌、所蔵情報はMARCデータ(TRC-Tタイプ、日販、日書連等)から取り込みを行い、一括登録できること。                                                                 | 現行機能と同等であれば問題ないでしょうか。                                                                                                       | 今回はパッケージシステムのため、細かい指定はありません。現行図書管理システムでは問題なく使用しています。       |

| No. | 仕様書記載内容 |       |                                      | 質疑                                                                                                     | 回答                                                                                  |
|-----|---------|-------|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 20  |         | No.61 | 書誌情報はＴＯＯＬｉから検索し一覧から選択して登録できること。      | 書誌情報ＴＯＯＬｉのご利用には、連携契約が必要です。TRC様と吹田市立男女共同参画センター様で別途ご契約いただくという認識でよろしいでしょうか。<br>もしくは、現行機能と同等であれば問題ないでしょうか。 | 当センターでTRCとＴＯＯＬｉ使用の契約をしています。<br>なお、ＴＯＯＬｉとの連携についてはUSBを使用して手動で行っているため、現行の運用で問題ありません。   |
| 21  |         | No.63 | 所蔵情報の図書コードはシステム初回設定で自動/手動登録を選択できること。 | TRCより購入された本の自動登録と、事前に用意されたバーコードを利用し雑誌登録をして頂いていますが、現行機能と同等であれば問題ないでしょうか。                                | 現行図書管理システムでは、TRCから購入した本を自動登録する方法とは別に、当センターでバーコードに資料情報を手動登録する方法も行っており、現行の運用で問題ありません。 |
| 22  | -       | -     | -                                    | 契約書(案)のご提示をお願いできますでしょうか。                                                                               | 現時点では用意ができていませんが、契約書の内容等について受注者と調整することは可能です。                                        |